

◆◆俳誌プロムナード◆◆

『稲』 令和四年十一月号

大山知佳歩

◆主宰 山田真砂年（稲俳句会）

◆令和二年九月、山田真砂年が神奈川県逗子市で創刊。師系鍵和田柚子。心のゆらぎである詩を实感ある言葉で詠む。隔月刊。

（角川俳句年鑑より）

◆全国的な俳句結社であった「未来図」主宰・鍵和田柚子氏が令和二年六月に亡くなり、三十五年以上にわたり発行されてきた俳句雑誌「未来図」が終刊した。稲俳句会は、その後生まれた俳句結社の中の一つである。

◆山田真砂年主宰は『稲』の表紙裏に巻頭言として以下の詩を載せている。

俳句は詩です

詩は心のゆらぎ きらめきです

大きなゆらぎ 小さなゆらぎ

さまざまな心のゆらぎを十七音で

表現したものが俳句です

今の己の身の中にあった言葉で

表現しましょう

◆主宰句「蟬の我慢」より七句

片蔭は蕎麦屋へ続く小諸かな

遊船や穴に入ること橋くぐる

航跡と同じ色して夏の雲

眼前に蟬の我慢や鳴き止まず

凌霄の盛りは家を冥くして

併せし花火の中に四面楚歌
蟻蛄鳴くや祈りは土偶の形をして

◆牧園賀氏による「鍵和田柚子一句鑑賞」、中村かりん氏による「主宰の一句鑑賞」のほか、滝代文平氏の「宿の膳」十六句と同氏による「現代俳句鑑賞」を掲載。エッセイ、吟行記も収録。各句会や有志の吟行記は読んでいて楽しく、吟行地を知る上で大変参考になる。槍田良枝氏による連載記事「評論 三橋鷹女の世界」は綿密な句誌調査に基づき、鷹女の全作品を記録するという貴重な研究論文となっている。

◆課題句「時雨忌」は、國益悦子氏の選による全二十四句の選評を掲載。

秀逸句のうち四句を紹介する。

時雨忌や港離るる舟二艘

時雨忌や男の通す針の糸

時雨忌や風に急かさるる山ぼ道

時雨忌や鳥海山の深き霧

◆主宰選「今月の推薦句」十九句のうち、八句を紹介。

後ろみながら子供神輿を押し返し

手長蝦はさみを垂れて捕らはるる

戸締りの呪文つぶやく日の盛り

秋麗や一重まぶたの仏たち

わからぬといふことわかる沙羅の花

ラッピング列車を透かす夏木立

戸の軋み遠笛に似て秋立ちぬ

池や煮えたか牛蛙吼えてをり

「稲」の表紙は豊かに実った稲穂の色一色である。稲の花が稲穂となり、瑞穂となつて、やがて垂穂となるように、「稲」の前途には豊稔の未来が待っていることであろう。

◆未来図は直線多し早稲の花

永井 三枝

滝代 文平

林 恵美子

瀧本 萌

上田 信隆

大坪 正美

牧園 賀

中村かりん

飛田小馬々

相馬ゆう子

池田角之助

戸上 晶子

鍵和田柚子